



今この瞬間の勉強の大切さを・・・

大谷翔平選手は「ドラ1、8球団」という夢(目標)を達成するために、“体力づくり”の他、“運”や“人間性”など様々な具体目標を設定していました。そして、皆さんも自分の目標を達成するために、今何をすべきかを考えてシートに記入しましたね。今のみなさんは、その目標に向かって進んでいますか。以前、こんな記事を見たことがあります。



人間の意志の力 (Willpower) には3つの側面がある。1つ目は、自分の目標に沿うことを実行しようとする意志 (I will・「やるぞ」)、2つ目は、それ以外のもの (誘惑や快樂など) を切り捨てる能力 (I won't・「しないぞ」) である。

3つ目は、自分が何をしたいかの目標をはっきりさせる力 (I want・「こういう人間になりたい」という夢) である。

「しないぞ」は、やらなくてはいけないことをやらないのではなく、“やりたいことをやろうとする気持ちを妨げるもの”をやらない力です。瞬間の誘惑(快樂)に流されてしまわないように、やはり「あとちょっとだけ前に進む」毎日でありたいものですね。

それでは、今回は「入試全般のこと」に関するみなさんからの質問に対する回答です。

質問	質問	アドバイス・回答
入試全般	21 具体的な受験対策(基準、科目、面接等)と傾向が知りたい	私立高校と公立とで対策は若干異なります。令和5年度入試(皆さんが受験する入試です)までは、公立高校は前・後期制です。前期は国・数・英の3教科または総合問題(高校独自の入試問題)、後期は5教科になります。前期は面接があり、多くはグループ面接で、個人面接が複数回ある高校もあります。私立高校については、高校によって面接があったりなかったりします。入試科目は3教科や5教科、記述式やマークシート、配点も高校によって異なります。(数学と英語の配点が高い高校もあります)私立も公立も2学期になると入試に関する細かい情報がでますので、よく確認をして準備をするようにしましょう。面接については2学期に校長先生との面接練習を予定しています。集団面接の場合は、人の意見に耳を傾け、たとえ自分と違う意見であっても「なぜそう考えるのか」を理解し、受容し、その上で自分の考えを持つことができるかどうかのポイントです。自分の意見を常に持てるように習慣をつけておくといいですね。
	22 群馬県の受験システムについて(公立の推薦、併願・単願)	公立高校については推薦というものはありません。ただし前期選抜では、調査書の評定や学力検査を重視して第1段階選抜を行って合格者を決めた後、第1段階合格者以外の受験者を対象に部活動等の実績を加えて第2段階選抜を行い、合格者を決めるなどの選抜方式をとっている学校もあります。基本的に公立については、「合格したら必ず入学」してください。一方私立高校については、推薦入試(単願)と学業特待入試(併願)があります。推薦は学校長からの推薦で受験するので、「合格したら必ず入学」してください。学特(併願)に合格した場合、手続きは公立高校の発表を待ってからになります。一般に、基準をクリアしていれば推薦の方が合格の可能性は高くなります。単願も同様です。
	23 私立高校の入試問題の傾向(高校による違い)	私立高校は、日程の関係から3年の2学期までの学習内容に出題範囲が設定されていることが多いです。例年、教員対象の説明会が行われる10月くらいまでには出題範囲の通知が来るので、進路コーナーや進路通信をよく確認しておきましょう。マークシートや記述式などの違いも見えておくとよいです。特に数学はマークシートへの記入の仕方が難しいと言われています。マークの仕方も学校によって異なります。過去問をチェックしておくことをおすすめします。
	24 「科」というのがよくわからない	高等学校はより専門的な学習をするところです。そのため、複数の「科」が設置され、「科」によって学習内容が変わります。受験(検)段階で「科」を選択するところもあれば、「くくり」という形で一括で受験(検)し、半年後や2年次から「科」に分かれる高校もあります。主な学科としては、「普通科」「工業科」「商業科」「理数科」「スポーツ科」「芸術科」「総合学科」などがあります。前橋工業高等学校では、工業科の中に機械科、電気科などの学科が設置されています。将来像をはっきり描けている場合は、専門学科の受験を視野に入れて受験校を選んでみてよいでしょう。「まだ将来のことがよく決まっていない」という場合は、様々なことを学べる「普通科」を選ぶのが一般的です。興味のない科を受けてしまうと、3年間がつらくなってしまう可能性もありますので、「科」については進路コーナーの掲示もよく見ておいてください。
	25 志望校のレベルや推薦をもらえる評定平均	推薦制度があるのは私立高校になりますが、その基準は高校によって異なります。今年度も9～10月くらいに教員向けの入試説明会があります。そこで入試に関する概要が示されます。具体的な数字は伝えることはできませんが、推薦については教科評定だけでなく、学校生活全体について選考基準が示されます。したがって、毎日の積み重ねを大事にすることは変わりません。まずは校内推薦会議を通らなければなりません。校内推薦会議はあくまでも校内基準のため、「=合格」ではなく、推薦入試の受験条件を満たしたということになります。面接や当日の試験や作文などの対策をしっかりとっておく必要があります。私立高校はコースによって学習の難易度もかなり変わります。部活動との両立を考えている人は、その辺りもよく調べておきましょう。公立高校については入試全般No.22で回答したように、推薦制度はありません。
	26 どの点数だとどの辺りの高校に合格できるのか	志望校を選ぶのに必要なのは、自分の学力をしっかりと把握することです。学力がわからなければ、現時点で目指せる高校はどのかが分からず、目標を立てることができません。もし現在の学力を把握せずに志望校を選ぶと、最初からまったく手の届かない高校を選んでしまったり、勉強すべき科目を見誤って合格を逃してしまう可能性もあるでしょう。このような事態を避けるためにも、必ず自分の学力を把握するようにしてください。たとえば確認テストをフル活用することで、定期的に“今の実力”を知ることができます。そうすれば志望校合格に必要な努力量も見え、「ここなら確実に入れる」という高校も把握できますので、「高校受験に失敗してしまうかも…」という不安を解消できるでしょう。難易度は志願状況によって若干変わってきます。去年は入りやすかったから今年も・・・というようにはいきません。確認テストの結果や評定をもとに、先輩たちの実績を参考にしながらアドバイスをしていきます。今はとにかくできる問題を1問でも多く増やすこと、落とす穴(自分が苦手なところ)をすべて埋める(苦手をゼロにする)ことは難しいので、“落ちないくらいの大きさ”にすることが大事です。

質問	質問	アドバイス・回答
27	併願校を受けた方がよいのか	入試時期はコロナだけでなく、例年インフルエンザも流行する時期です。準備をしても、十分に力を発揮できない状況になることも考えられます。また、初めて経験する入試ですので、併願校受験という形で入試に慣れしておくことはよいでしょう。私立高校の併願校は、第一志望校と同じくらいに真剣に選んでください。万が一第一志望校の結果が望ましくなかったときは、併願校に入学する人がほとんどだからです。学力面で問題なく入学できる場所を選ぶのはもちろんですが、「ここで3年間を過ごすかも」という視点も取り入れながら併願校を慎重に選びましょう。 一方、公立高校が第一志望の場合、公立高校入試の前に私立高校の受験を4、5回受けることで（日程次第では可能）、入試の雰囲気には慣れますが、自分の受験計画のピークをどこにもっていくかがブレしてしまうことも考えられます。公立高校は前期と後期の2回の受験機会があります。併願校を受験の有無も含め、公立前期の結果によって後期をどうするかなど、あらゆるパターンを想定した受験計画を11月には提出してもらいますので、それまでによく家庭で相談しておいてください。
28	偏差値で見た各高校の位置	みなさんが目指す進路の実現に向けて、各高校ではさまざまなコースや科を設置しています。したがって、コースや科によって、合格ラインも変わります。また、合格判定については当日の成績（点数）だけでなく、中学校での取組も対象になりますので、難易度を数値化することは非常に難しいです。しかし、「この高校にはどのくらいの点数が必要か」という情報は、志望校選びの判断材料になりますし、これからみなさんが受験勉強をする上での目標にもなるので、これまでの資料を参考にして、面談等で説明していきます。もちろんいつでも相談にのりますので、学年の先生たちに聞いてください。
29	専門コース（芸術系、音楽系、スポーツ系）で、自分の技術が受験基準を満たしているか	専門コースについては、各高校やコースによって異なります。個別に対応しますので、直接聞きに来てください。なお、専門コースの受験を希望している人は、どの高校のどのコースを考えているのか、高校卒業後はどのような進路を考えているのかなど、自分の考えをしっかりとめておくことが大切です。
30	自分に合った高校の選び方	義務教育と異なり、ここからは「自分で選ぶ」道です。どんな夢や希望をもつかによって、その人の「生き方」の方向性が決まります。夢という現実ばなれした気がするなら、単に「やりたいこと」「興味関心のあること」と言い換えても良いかもしれませんが、自らの興味関心そして夢を純粋に追うことそのものが貴重な学びの体験となり、結果として「学力アップ」「夢の実現」に繋がります。まずは「その高校に通っている自分」「その高校で生活している自分」を想像できるかどうかです。生き生きしている自分が想像できますか。そのための学校見学やオープンスクールへの参加です。自分の目で見てきましょう。
31	試験当日に体調を崩して受験ができなかった場合はどうなるか	先日決定した群馬県立高等学校の令和5年度入学者選抜実施大綱では、後期試験後の令和5年3月24日に追検査を実施することとしています。受験資格は以下の通りです。 追検査合格者全日制課程・フレックススクール後期選抜又は定時制課程選抜に出願した者のうち、新型コロナウイルス感染症に感染している者、又は感染が疑われる者で症状のある者、学校保健安全法第19条で出席停止の扱いが定められている感染症に感染し、選抜当日、受験できない者及び本人の責に帰さない理由により受験できない者で、当該選抜の全てを受検できない状況となり、当該高等学校・学科等における追検査の受験を希望する者。 私立高校については、各高校によって対応が異なりますが、多くの高校では複数の受験日程（Ⅰ期、Ⅱ期、一般等）を設定していますので、いずれかの日程で受験可能となる場合が多いです。
32	本番で点が取れるか。万全の体調で臨めるか。	100%はありません。100%にどれだけ近づけるかが大事なのだと思います。どんな結果でも、それを正解にするかどうかは自分自身です。受験勉強を乗り越えた先の自分の姿を見失わないことです。
33	・受験全体が不安 ・受験に向けて勉強が頑張れるか不安	不安は頑張っている人が感じることで、真剣に進路を考えているから不安になるのです。でもあまり考えるすぎると進めなくなってしまうので、「あと一歩だけ前に」をいつも頭に入れておけば、ちゃんと夢に近づいて行くものです。頑張れないときも同じ。「えっ、進んでる？」と言いたくなるような一歩でもいいので、毎日少しずつ心を心がけて行きましょう。それから、不安なときこそ、先生たちを頼ってください。家族の次に、みなさんを近くで見ている先生方ですから。
34	面接について（内容、評価の仕方、よい回答等）	面接については、昨年度までに先輩たちが受けた内容についてまとめたものがあります。志望校が決まってきたら、志願理由書を書いてもらいます。それをもとに、面接練習を行います。面接練習は学年担当職員だけでなく、校長先生にもお願いしますので、本番同様にしっかりと答えられるように準備をしておいてください。その準備のために（つまり志望校を決定するために）、学校見学会等に参加して、「高校に進学して自分は何をしたいのか」をイメージしておくことが大切です。ちなみに、よい回答というのは、自分の意思がはっきりしていて、自分が進学理由につながっていることです。「将来になりたい職業は何か」と聞かれて、「〇〇です」とはっきり答えることだけがよい回答ではありません。たとえば将来のやりたい職業が決まっていなくても、そのためにどのような準備をしたいかをはっきり伝えることができれば、それはよい回答になります。自分の考えを、「正しい姿勢で」「正しい言葉遣いで」「真摯な態度で」答えることを意識してください。
35	高校に行けるかどうか	学年集会でも話しましたが、行きたい高校に近づく努力をする。その過程がもっとも重要です。行けたかどうかではなく、行ったその先で何をやるのが大事です。それを考えて高校を選んでいきましょう。
36	第一志望をどちらにするか	志望校の最終決定は中学3年生の冬です。志望校を選び始めてから最終決定の間に、ほとんどの人は学力が変動します。どのくらい学力が伸びるかは分かりませんので、志望校は複数選んでおくのがベストです。成績の伸び次第で挑戦可能な学校もピックアップしておきましょう。決定するのは自分です。そのためのアドバイスは準備万端ですから、いつでもどうぞ。
37	どの高校が自分に合っているのか（レベル・内容）	まずはその先にやりたいことを考えてください。良い（自分に合った）高校というのは、将来の夢や希望、能力・適性などによって異なります。その自分の能力を最大限に伸ばすことができる学校が、一番良い高校です。まずはどんな条件の高校に通いたいか考えてみましょう。校風が自分の考えていたものと合わなければ、過ごしにくい高校生活になってしまうかもしれません。ただし、希望をすべて満たす高校は見つかりにくいので、どの項目（学力・校風・学科やコース・部活レベル）を重視するか優先順位を決めおくとういでしょう。
38	部活と勉強の両立	部活が忙しくて勉強時間が確保できないという悩みはつきものです。結論からいえば、部活と勉強の両立は可能です。効率的な勉強をしようと思えば、健康な精神、肉体が必要です。効率的に勉強するためには、部活で心身ともに鍛えることはとても有効です。とはいえ、部活が忙しい人はいつ勉強すればいいのでしょうか。「どうしても帰宅後疲れて寝てしまう」「平日の勉強時間がどうしてもとれない」という人は、勉強時間が少ないことを自覚して、授業中は最大限に集中しましょう。授業中に習うことはその場で覚える意気込みが大切です。授業中に消化しきれなかった内容は、印をつけておきましょう。印をつける際に、「どのように理解できなかったか」をメモしておくこともポイントです。数日後に勉強する際に、メモを読むことで効率的に復習することができます。ただし、部活と勉強を両立する上で、睡眠時間は削らないようにしましょう。勉強効率を上げるためには睡眠はとても大切です。睡眠によって疲労した脳が回復しますし、人は睡眠中に記憶が定着します。勉強時間が確保しにくい場合、授業中の集中力がとても大切になってきますから、しっかりと睡眠を心がけてください。